

出会うワゴン (後期)

今月の出会うワゴンのテーマは「歴代の課題図書」です。今年の課題図書に『廉太郎ノート』という本があります。この本は模試に一度問題文として出てきました。そこで私は歴代の課題図書の中にもそのような本があるのではないかと、思ってこのテーマにしました。

『ペンギンが教えてくれた物理のほなし』

渡辺佑基

この本は、作者の行った観察などから生物の不思議を物理の目線から解読していく内容の本です。例えば、なぜマグロは速く泳ぐことができるのかとか、なぜゾウアザラシは長く潜っておくことができるのかとか。

『怪物はささやく』

パトリック・ネス

モノクロの挿絵と独創的な世界観が本を読んでいると本の世界に入ったかのような錯覚を覚えます。少年コナーと怪物との物語はどんな結末を迎えるのか、想像を超える展開を見せてくれます。

『路上のストライカー』

マイケル・ウィリアムズ

主人公のテオとその兄は、虐殺によって家族を失うが、二人で虐殺を生き延び、南アフリカを目指す。が、そこで待っていたのは、シンバプエから来た外国人である自分たちに向けられる憎しみとおそれであった。

主人公は、物語のほとんどを虐げられて過ごします。その姿は、差別や偏見について考えるきっかけになりました。(五年)

読書会報告

六月十一日木曜日、第一回読書会として「ミニブックトーク」が行われましたので、その様子を報告します。

* 読書会の様子

今回の読書会では、コロナウイルス感染拡大防止のため、ミニブックトークと称して、一人一冊気に入った本の紹介を行いました。〈手順〉学年・性別を問わず、くじを引き、各テーブル四、五人で編成。

- ① 順番をじゃんけんで決める
- ② 一番手から、持ってきた本の紹介
例)「一年一組の松山西太郎です。今回は〇〇という作家の『□□』という本を紹介します」
- ③ 同じテーブルの参加者から発表者に質問
- ④ 二番手以降も同様に本の紹介
- ⑤ 感想発表

マスクの着用や手指の消毒を徹底しつつ、各テーブルごとに学年を超えて、実りある時間を過ごすことができました。



* 反省・感想

「読書会に初めて参加しました。好きな本を共有したり、本の話で盛り上がりつつ、とても良い経験になりました。また、先輩の話はとても参考になりました。(二年)」

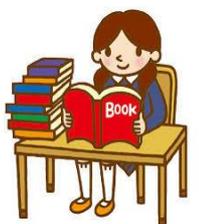
「新書に対して難しいというイメージを抱いていましたが、六年生が紹介してくれたおかげで良い話が聞けました。(三年)」

「普段読まないジャンルも、『面白い』と紹介されたら興味が湧いてきました。図書館にある本だけが全てではないのだと思いました。(五年)」

今回、このような催しは初でしたが、予想以上の反響を頂けて嬉しかったです。他学年との本を通じた交流は、参加者にとって大きな収穫となりました。互いに本を紹介し合うことは、自分の視野を広げることに繋がります。皆さんも、ぜひ次の読書会に足を運んでみてください。



**次回の読書会は、
十月二十九日です。**
(六年)



お金のファン (前期)

梅雨が明けてこれからどんどん暑くなってきましたが、いかがお過ごしですか。今回は『夏に読みたい本』というテーマで本を紹介します。この機会に読書の時間を増やしてみませんか。

『僕はロボットじゃない』

山田悠介

人型ロボットを使った国家的極秘プロジェクトの一員健は、幼なじみで同僚の陽一郎の妹、咲に恋をしています。ある日、咲の勤務先にテロ予告が届き事態は急変しました。健はテロを防ぎ、咲を守るのでしょうか？

『満願』

米澤穂信

この本は、短編小説が6話ほど入っており、主人公の身におこる様々な事件が思いもよらない方向へ展開していきます。どの小説も知らぬ間に引き込まれ本をめくる手が止まりません。

『タスキメシ』

額賀澤

高校3年生で陸上部の真家早馬は、右膝を剥離骨折してしまい、それから部活に戻らなくなっていました。しかし、大学生になってからまた陸上に戻ったとききっかけは？読了後とても爽やかな気持ちになれる一冊です。また、大学駅伝が舞台の続編『タスキメシ箱根』もあります。

(三年)



さくら文庫の紹介

今回のエッセイでは、さくら文庫について紹介します。

皆さんは図書館内に設置

されているさくら文庫について知っていますか？さくら文庫とは、本校一期生で在学中に事故で亡くなった奥村さくらさんの両親が、「西校の皆さんに役立てていただきたい」と、寄贈してくださっている本です。

新書から話題になった本まで、三百冊を超える様々な本が並び、充実したコーナーになっています。場所は郷土資料と新書の棚の間です。今回は、さくら文庫から、二年生おすめの本を紹介いたします。

『坊ちゃん』

夏目漱石

この本は「わたしの薦める一冊の本」のアンケートで前期・後期課程で共に一位になった本です。波瀾万丈の日々をユーモアたっぷりに描く不朽の名作。ぜひ読んでみて下さい。

『流星の絆』

東野圭吾

惨殺された両親の仇討ちを流星に誓い合った三兄妹。14年後、彼らが仕掛けた復讐計画は、いったいどうなるのか。ドラマ化もされた、感動大作。ラストにきくと、涙する。ぜひ、読んでみて下さい。

『さくら』

背フバルの分類番号3段目に、『さくら』と書かれている本を見つけたら、ぜひ手に取ってみてください。きくと、新しい本と出会えます。

(二年)



新刊情報

- 『発注いただきました！』朝井リョウ
- 『薬屋のひとりごと』9『日向夏』
- 『ほくときみの半径にだけ届く魔法』七月隆文
- 『ケーキ王子の名推理』5『七月隆文』
- 『ハイ・シュード 東京バンドワゴン』小路幸也
- 『都会のトム・ソーヤ165』はやみねかおる
- 『天国から始まる物語』ガブリエル・セヴァン
- 『アーモンド』ソン・ウォンヒョン
- 『エヴリデイ』ディヴィット・レヴィヤン
- 『その年、わたしは嘘をおぼえた』
- 『ローレン・ウォーク』
- 『ジャパン・トリップ』岩城けい
- 『マツリカ・マトリョシカ』相沢沙呼
- 『みつきの雪』眞嶋めいり
- 『カケラ』湊かなえ
- 『アドリブ』佐藤まどか
- 『朔と新』いとつみく
- 『猫を棄てる』村上春樹
- 『境目なしの世界』角野栄子
- 『北欧に学ぶ小さなフェミニストの本』
- 『世界魔法道具の大図鑑』
- 『人工知能は人間を超えるか』
- 『ティンブレングの先にあるもの』
- 『人工知能の「最適解」と人間の選択』
- 『シリウス人体 遺伝子』
- 『臓器たちは語り合う』
- 『人体神秘の巨大ネットワーク』
- 『持続可能な医療』
- 『超高齢化時代の科学・公共性・死生観』
- 『働き方5.0』落合陽一
- 『部活で吹奏楽 上達BOOK』各種
- 『最新地球と生命の誕生と進化ガイドブック』
- 『最新天気予報の全てがわかる！』
- 『最新巨大地震と火山噴火をよく知る本！』
- 『最新宇宙の謎に迫る 天文学最前線』
- 『最新★修学旅行の本 奈良 吉野山』
- 『最新★修学旅行の本 京都 比叡山』
- 『固有種が教えてくれること』
- 『残酷な進化論 なぜ私たちは不完全なのか』

編集後記

登校中、神社の方から蝉の声が聞こえて、もうそんな季節かと驚く。人間とは単純なもので、一度そつ気づくと色んな場面で夏を感じるようになった。中庭を歩くときの生ぬるい風、体育の時間に見つけた入道雲、冷凍庫のソーダアイス。

夏がテーマの本は本校にも多い。ずっと食わず嫌いをしていた江國香織の作品を、今年の今頃初めて読んだ。この「すいかの匂い」も夏に関係する短編集で、悔しいほど面白い。彼女はコテコテの女らしい作風だと勝手に決め付けていたから、その瑞々しさ、爽やかさにも驚かされた。

夏は好きだ。だからだろうか、過ぎ去るのもいっそう早いような気がする。今もゆっくりと、それでも確実に高校生活最後の一年が失われていく。時の流れに怯えながら、それでも移ろいゆく季節の変化を見逃さない人間でありたい。

(委員長)

